

～戮力協心～

NO.51

2022年6月10日

発行責任者 池尻 和寛

編集責任者 情 宣 部

会社：昨年冬の水準を確保したい。会社も株主・省にはさまれて大変なんだ。

組合：大変なのは理解するが、それが経営責任だ!!

それ以上に職場はもっと大変な状況にあるんだ!職場を見る!!

22夏季手当 第3回交渉～会社の考え～

中央本部は6月10日に2022年度夏季手当第3回交渉(会社の考え)を行ってきました。

会社の考え

- ・2021年度を振り返り、新型コロナウイルスによる経済停滞、ウクライナ情勢による物価上昇等で経済先行き不透明。昨年末に発生した山陽線脱線事故、北日本を中心とした寒波、3月の福島県沖地震などの自然災害により、収入が大幅に減収し、2022年3月期決算では単体△12億円、連結2億円の結果となった。
- ・2022年度は計画通りの収入通りの収入状況は悪いスタートとなり、現時点で対計画において△19億円となっている。
- ・新型コロナウイルス感染の不安や、相次ぐ輸送障害の対応について社員の奮闘により収入確保できていることは経営陣も認識しており、感謝している。
- ・若年退職については、他企業に比べれば低い水準となっている。だからと言って若年退職は良くないので対応していく。

青年部の主張

- ・『昨年冬の水準を確保したい』という考えは青年部として遺憾である。前回の交渉において会社は、「生活給は否定しない」と言っていたが、総合的に判断して「昨年冬」では、業績しか反映されているとしか思えない。会社は業績を言い訳にまたしても我慢をしてくれと言っているようなものだ!
- ・前回の交渉において会社は、『生産性向上を求めている』と言ったが、職場は慢性的な要員不足のなか、コロナの陽性者・濃厚接触者等による勤務操配、超勤・休日出勤までしてマンパワーを駆使して列車を止めずに対応している。職場の奮闘に対してまだ働けというのか!
- ・「間にはさまれてこちらの立場も苦しい」というが、青年部員の生活は物価上昇に追い付いていないからもっと苦しい思いをしている!再考せよ!

山場の闘いに入ります!青年部員の現実を突きつけ、職場から闘いをつくり出そう!!